



消防団の組織概要

令和7年4月1日現在

都道府県名	山形県	所在地	〒998-8540
市町村名	酒田市		山形県酒田市本町二丁目2番45号
消防団事務所管	酒田市総務部危機管理課	電話番号(直通)	0234-43-8706 FAX 0234-26-3688
消防団名	酒田市消防団	メールアドレス	bousai@city.sakata.lg.jp

組織	分団数		28	分団	ホームページURL	http://www.city.sakata.lg.jp/		
	うち機能別分団数		0	分団	SNSアカウント	Facebook 酒田市役所		
	方面隊数		0	隊				
	部数		107	部	消防団活動事例・PR等	酒田市消防団の特徴的な取組照会について		
	班数		156	班				
団員数	条例定数		1,650	人	・酒田市消防団では、「地域コミュニティと消防団との連携強化」に重点を置いた取り組みを実施している。具体的には、消防団幹部と地域コミュニティ組織（自主防災組織、自治会、地区コミュニティ振興会等）の役員等との意見交換や顔合わせを積極的に行っている。 ・ねらいは大きく3つあり、1つ目が消防団の存在や活動を地域住民に知ってもらうこと、2つ目が地域防災力の向上にむけて地域と消防団が協力できる部分（連携）を考えるきっかけにすること、3つ目が大規模災害時に1人でも多くの命が助かる方法を地域全体で考えることである。 ・ひと昔前は1集落に1つの班、もしくは地域の組ごとに1つの部や班が存在していた。しかし、少子化や人口減少などに伴い消防団を維持するため、組織再編（分団や部、班の統廃合）を進め、現在は複数の組や集落で1つの班を構成していることから、消防団員が地元にはない地域（組や集落等）も多くある。とくに市街地においては、住民の人口に対して消防団員が圧倒的に少なく、自分の地域に「消防団がない、いない」と認識している地域コミュニティ組織（コミ振や自治会等）の役員が多い。一方で消防団は、市内すべてのエリアを活動範囲（管轄）としており、コミ振区域を基準に「分団」を地域の組や集落ごとに「部や班」を配置している。地元には消防団の機具庫（ポンプ庫）がない、団員が住んでいなくても、自分の地域を管轄する分団、部、班があること（存在すること）を知っていただき、そのうえで地域防災力の向上の観点から、各コミ振や自治会と消防団との連携強化を図るため、令和5年度から地域の連携強化にむけた意見交換などを実施している。 ・大規模災害時に1人でも多くの命が助かる方法を地域全体（コミ振、自治会、自主防、民生委員、消防団など）で話し合う場を作ることが重要である。避難行動は「自分の身は自分で守る」の観点から、自分自身（自力）で安全な場所へ確実に逃げる、避難することであるが、自力では家の外に出られない、誰かに手伝ってもらわないと逃げ出せない人を各地域でどう救うかがポイントとなる。そこに地域の一員である消防団も加わり「救える命を救う」ための人命最優先の取り組みにおいて、協力できる部分があれば関わっていくべきと考えた。地域コミュニティや消防団がバラバラで行動するよりは、日頃から連絡調整を行い、役割分担をはじめ連携できる部分があれば、しないよりはした方がよいと考えた。 ・また、団員確保にむけて、消防団の活動を理解してもらい、いかに入団につなげるかが課題であり、地域と消防団との連携を図ることで、地縁や人縁を活かし、地域から勧誘、入団対象者を推薦してもらう取組につなげていきたい。			
	実員数		1,523	人				
	男性団員数		1,497	人				
	女性団員数		26	人				
	基本団員数		1,434	人				
	大規模災害団員数		0	人				
	その他の機能別団員数		89	人				
職業構成別団員数	国家公務員		1	人	・酒田市消防団では、「地域コミュニティと消防団との連携強化」に重点を置いた取り組みを実施している。具体的には、消防団幹部と地域コミュニティ組織（自主防災組織、自治会、地区コミュニティ振興会等）の役員等との意見交換や顔合わせを積極的に行っている。 ・ねらいは大きく3つあり、1つ目が消防団の存在や活動を地域住民に知ってもらうこと、2つ目が地域防災力の向上にむけて地域と消防団が協力できる部分（連携）を考えるきっかけにすること、3つ目が大規模災害時に1人でも多くの命が助かる方法を地域全体で考えることである。 ・ひと昔前は1集落に1つの班、もしくは地域の組ごとに1つの部や班が存在していた。しかし、少子化や人口減少などに伴い消防団を維持するため、組織再編（分団や部、班の統廃合）を進め、現在は複数の組や集落で1つの班を構成していることから、消防団員が地元にはない地域（組や集落等）も多くある。とくに市街地においては、住民の人口に対して消防団員が圧倒的に少なく、自分の地域に「消防団がない、いない」と認識している地域コミュニティ組織（コミ振や自治会等）の役員が多い。一方で消防団は、市内すべてのエリアを活動範囲（管轄）としており、コミ振区域を基準に「分団」を地域の組や集落ごとに「部や班」を配置している。地元には消防団の機具庫（ポンプ庫）がない、団員が住んでいなくても、自分の地域を管轄する分団、部、班があること（存在すること）を知っていただき、そのうえで地域防災力の向上の観点から、各コミ振や自治会と消防団との連携強化を図るため、令和5年度から地域の連携強化にむけた意見交換などを実施している。 ・大規模災害時に1人でも多くの命が助かる方法を地域全体（コミ振、自治会、自主防、民生委員、消防団など）で話し合う場を作ることが重要である。避難行動は「自分の身は自分で守る」の観点から、自分自身（自力）で安全な場所へ確実に逃げる、避難することであるが、自力では家の外に出られない、誰かに手伝ってもらわないと逃げ出せない人を各地域でどう救うかがポイントとなる。そこに地域の一員である消防団も加わり「救える命を救う」ための人命最優先の取り組みにおいて、協力できる部分があれば関わっていくべきと考えた。地域コミュニティや消防団がバラバラで行動するよりは、日頃から連絡調整を行い、役割分担をはじめ連携できる部分があれば、しないよりはした方がよいと考えた。 ・また、団員確保にむけて、消防団の活動を理解してもらい、いかに入団につなげるかが課題であり、地域と消防団との連携を図ることで、地縁や人縁を活かし、地域から勧誘、入団対象者を推薦してもらう取組につなげていきたい。			
	地方公務員		86	人				
	都道府県職員		21	人				
	市区町村等職員		65	人				
	特殊法人等公務員に準ずる職員		59	人				
	農協職員		38	人				
	郵政職員		16	人				
	その他		1,361	人				
ポンプ	普通消防ポンプ自動車		15	台	・酒田市消防団では、「地域コミュニティと消防団との連携強化」に重点を置いた取り組みを実施している。具体的には、消防団幹部と地域コミュニティ組織（自主防災組織、自治会、地区コミュニティ振興会等）の役員等との意見交換や顔合わせを積極的に行っている。 ・ねらいは大きく3つあり、1つ目が消防団の存在や活動を地域住民に知ってもらうこと、2つ目が地域防災力の向上にむけて地域と消防団が協力できる部分（連携）を考えるきっかけにすること、3つ目が大規模災害時に1人でも多くの命が助かる方法を地域全体で考えることである。 ・ひと昔前は1集落に1つの班、もしくは地域の組ごとに1つの部や班が存在していた。しかし、少子化や人口減少などに伴い消防団を維持するため、組織再編（分団や部、班の統廃合）を進め、現在は複数の組や集落で1つの班を構成していることから、消防団員が地元にはない地域（組や集落等）も多くある。とくに市街地においては、住民の人口に対して消防団員が圧倒的に少なく、自分の地域に「消防団がない、いない」と認識している地域コミュニティ組織（コミ振や自治会等）の役員が多い。一方で消防団は、市内すべてのエリアを活動範囲（管轄）としており、コミ振区域を基準に「分団」を地域の組や集落ごとに「部や班」を配置している。地元には消防団の機具庫（ポンプ庫）がない、団員が住んでいなくても、自分の地域を管轄する分団、部、班があること（存在すること）を知っていただき、そのうえで地域防災力の向上の観点から、各コミ振や自治会と消防団との連携強化を図るため、令和5年度から地域の連携強化にむけた意見交換などを実施している。 ・大規模災害時に1人でも多くの命が助かる方法を地域全体（コミ振、自治会、自主防、民生委員、消防団など）で話し合う場を作ることが重要である。避難行動は「自分の身は自分で守る」の観点から、自分自身（自力）で安全な場所へ確実に逃げる、避難することであるが、自力では家の外に出られない、誰かに手伝ってもらわないと逃げ出せない人を各地域でどう救うかがポイントとなる。そこに地域の一員である消防団も加わり「救える命を救う」ための人命最優先の取り組みにおいて、協力できる部分があれば関わっていくべきと考えた。地域コミュニティや消防団がバラバラで行動するよりは、日頃から連絡調整を行い、役割分担をはじめ連携できる部分があれば、しないよりはした方がよいと考えた。 ・また、団員確保にむけて、消防団の活動を理解してもらい、いかに入団につなげるかが課題であり、地域と消防団との連携を図ることで、地縁や人縁を活かし、地域から勧誘、入団対象者を推薦してもらう取組につなげていきたい。			
	水槽付消防ポンプ自動車		0	台				
	小型動力ポンプ	小型動力ポンプ付積載車	78	台				
		小型動力ポンプ（車両に積載していないもの）	0	台				
		手引き動力ポンプ	58	台				
年額報酬	報酬額（階級：団員）	年額	36,500	円				
	（参考）交付税単価（階級：団員）	年額	36,500	円				
出動報酬	火災		8,000	円				
	風水害等の災害		8,000	円				

※1:「消防団の組織概要等の調査」による。

※2:「年額報酬」「出動報酬」の額は、令和7年4月1日現在の条例で定める額。

「出動報酬」については、日額で定めがある場合は最大額を記載。一方、日額で定めていない場合は8時間の出動に換算した額を記載。

定めがない場合又は年額支給の場合には「-」と記載。

※3:詳しくは、各市町村等のホームページ等を参照。